

様式第2号（第8条関係）

会議の概要報告																																								
1. 会議の名称	令和2年度 第1回甲賀市青少年自然体験活動推進委員会																																							
2. 開催日時	令和3年1月22日(金) 19時30分～21時30分																																							
3. 開催場所	甲賀市甲南青少年活動センター 会議室																																							
4. 議題	委員長及び副委員長の選任について 令和2年度甲賀市青少年自然体験活動振興計画に基づく事業実施状況及び今後の事業実施について																																							
5. 公開又は非公開の別	公開																																							
6. 出席者	<p>《委員会委員》</p> <table border="0"> <tr> <td>ボーイスカウト</td> <td>団委員長</td> <td>横川 正己</td> </tr> <tr> <td>甲賀市青少年育成市民会議</td> <td>副会長</td> <td>前田 武広</td> </tr> <tr> <td>甲賀市PTA連絡協議会</td> <td>甲南支部長</td> <td>森田 元貴</td> </tr> <tr> <td>滋賀キャンプ協会</td> <td>事務局長</td> <td>吉久 義則</td> </tr> <tr> <td>学校教育</td> <td>大野小学校校長</td> <td>山本 寛</td> </tr> <tr> <td>幼稚園・保育園</td> <td>保育幼稚園課</td> <td>和田 有企子</td> </tr> <tr> <td>自然体験活動施設</td> <td>みなくち子どもの森</td> <td>小西 省吾</td> </tr> </table> <p>《事務局》</p> <table border="0"> <tr> <td>教育委員会</td> <td>教育長</td> <td>西村 文一</td> </tr> <tr> <td>教育委員会事務局</td> <td>理事</td> <td>奥田 邦彦</td> </tr> <tr> <td>教育委員会事務局社会教育スポーツ課</td> <td>参事</td> <td>岡崎 徳幸</td> </tr> <tr> <td>教育委員会事務局社会教育スポーツ課</td> <td>係長</td> <td>菊地 芳樹</td> </tr> <tr> <td>教育委員会事務局社会教育スポーツ課</td> <td>主査</td> <td>村長 宣亮</td> </tr> <tr> <td>甲南青少年研修センター</td> <td>青少年自然活動指導員</td> <td>竹田 秀美</td> </tr> </table>	ボーイスカウト	団委員長	横川 正己	甲賀市青少年育成市民会議	副会長	前田 武広	甲賀市PTA連絡協議会	甲南支部長	森田 元貴	滋賀キャンプ協会	事務局長	吉久 義則	学校教育	大野小学校校長	山本 寛	幼稚園・保育園	保育幼稚園課	和田 有企子	自然体験活動施設	みなくち子どもの森	小西 省吾	教育委員会	教育長	西村 文一	教育委員会事務局	理事	奥田 邦彦	教育委員会事務局社会教育スポーツ課	参事	岡崎 徳幸	教育委員会事務局社会教育スポーツ課	係長	菊地 芳樹	教育委員会事務局社会教育スポーツ課	主査	村長 宣亮	甲南青少年研修センター	青少年自然活動指導員	竹田 秀美
ボーイスカウト	団委員長	横川 正己																																						
甲賀市青少年育成市民会議	副会長	前田 武広																																						
甲賀市PTA連絡協議会	甲南支部長	森田 元貴																																						
滋賀キャンプ協会	事務局長	吉久 義則																																						
学校教育	大野小学校校長	山本 寛																																						
幼稚園・保育園	保育幼稚園課	和田 有企子																																						
自然体験活動施設	みなくち子どもの森	小西 省吾																																						
教育委員会	教育長	西村 文一																																						
教育委員会事務局	理事	奥田 邦彦																																						
教育委員会事務局社会教育スポーツ課	参事	岡崎 徳幸																																						
教育委員会事務局社会教育スポーツ課	係長	菊地 芳樹																																						
教育委員会事務局社会教育スポーツ課	主査	村長 宣亮																																						
甲南青少年研修センター	青少年自然活動指導員	竹田 秀美																																						
7. 傍聴者	1人																																							
8. 会議資料	資料1 甲賀市青少年自然体験活動推進委員会委員名簿 資料2 甲賀市附属機関の会議の公開等に関する指針 資料3 甲賀市青少年自然体験活動推進委員会規則 資料4 甲賀市青少年自然体験活動振興計画 資料5 令和2年度青少年自然体験活動事業一覧表 資料6 甲賀市青少年活動セミナー																																							
9. 議事の結果概要	1. 委員長及び副委員長の選任について 委員長に 滋賀県キャンプ協会 事務局長 吉久義則氏 を選任する 副委員長に 甲賀市PTA連絡協議会 甲南支部長 森田元貴氏 を選任する 2. 令和2年度甲賀市青少年自然体験活動振興計画に基づく事業実施状況及び今後の事業実施について 事務局：資料により説明 3. 意見交換 後述のとおり																																							
10. その他																																								

【意見交換】

委員長： これからご質問とかご意見を頂戴いたしまして、今年度、或いは次年度、それ以降に生かしていただくという趣旨でございますが、あまりこれに凝り固まってもなかなか話が進められませんので、もう幅広いテーマでご発言いただければありがたいなと思います。まとまりのないところは事務局でうまくまとめていただいて、参考にしていただけたらと思います。とりあえず、まずご質問も含めて何かございましたらお願いします。或いは、それぞれのお立場で新型コロナ

ナウイルス感染症という、非常に大きな影響を及ぼす状況がございますので、そんなことのお話でも結構かと思えます。私からお尋ねしますけども、マニュアルの配布というのは、実際作ってからかなりの年月が経っていますが、例えば残部数とか、改定の予定とか、今後のマニュアルの行き先を教えてくださいましたらと思えます。増刷したとかがあればお願いします。

事務局： はい。マニュアルの改定につきましては、前年度からご意見をいただいております、使っていただく方に分かりやすい表現にする必要があるということは、認識しております。今の時代にあった、見やすさであるとか、言葉の表現であるとか、そういったものはより良くしていくということは考えております。部数につきましては、以前に作ったものが残数として使っている状況ですので、同じ方に何度か渡しているものもあると思えますし、まだ、提供させていただけない団体や、個人の方もいらっしゃるということはあります。

委員長： はい、ありがとうございます。他ご自由に。はい、どうぞ。

委員： 自然体験活動で例えばニンニン忍者親子デイキャンプですとか、みなくち子どもの森の活動とか、その様子を例えば写真に収めたり、広報的なものっていうのは何かされておられますか。

事務局： まず、ニンニン忍者キャンプについてはホームページで、このような方を対象に、このような内容でしましたという報告をしていますが、定期的にチラシであるとか、学校のテレビで紹介したりとか、そういったものまでは出来ていません。

委員： 私自身が勉強不足で、こういった活動を実際にどれくらいされているのか、どんな内容でされているのかを存じ上げなかったのが、例えば写真で楽しそうにしている様子とか、もう少し見える形にした方が、来年に参加してみようかという方が出てくるんじゃないかなと思って質問させていただきました。

委員長： 他、何でも結構でございます。

教育長： よろしいですか。学校関係の委員さんに、小学校における自然体験学習って、実際にどんなことをやっているのか、少しお話いただけたらと思えます。

委員： はい。山の子学習は4年生と5年生がその中心になりますけども、うちは野洲川が近くにありますので、野洲川の歴史などに詳しい地域の方に野洲川学習という、野洲川に行って、この川の流れとか生き物とか、また洪水が起きた話とか、そういうのをずっといただいております。もちろん、この川に入る時の安全面についても十分そこで指導していただいておりますし、ライフジャケットを着た状態で行っております。5年生はフローティングスクールの関わりで、水学習を上水道と下水道の話、野洲川の水、琵琶湖の水、また40年前の琵琶湖の水などの透明度を検査するという学習も行っております。あと1年生については、生活科の中で、地域の自然という四季の学習をしたり、それを図工にしたりという学習をさせてもらっています。

委員長： ありがとうございます。当然、世間一般に言われているコロナの影響で、非常にご苦労されていると思えますが、制約というのはございますでしょうか。

委員： はい。山の子では、みなくち子どもの森さんが、随分対策を練ってくださいますし、丸太切りにするというのが大変子どもたちは喜んでやるんですけども、十分に間隔を空けたり、物の共有をできるだけ避けたりということをしていただきましたし、いつもだと、山の頂上まで歩くんですけども、短縮バージョンで短めのコースをとっていただきました。でも子どもたちは十分ゆ

とりを持った活動ができたかなっていうことを感じております。マスクをしながら野洲川に入っている状況で、暑い思いをしたこともあります。

委員長： 次に、幼稚園保育園での現状はいかがですか。

委員： コロナということで、やはり園も限られた施設ですし、たくさんの0歳から5歳児までいますので、本当に園外に散歩に出かけるっていう機会が増えたように感じています。1歳児なんか近く公園へ歩いて行きます。紐を持ちながら先生と一緒に行って、小川の水を眺めてみたり、触って冷たいって感じたりとか、本当に生まれて1年2年の子どもたちが実際の自然の中で触れて、見て、体験するってというのは、本当に大事なあとというもの、幼児教育の中でも感じています。安全面っていうところからも自然体験が本当に大事だと思います。安全面の部分では、本当に体の機能が低下しているのが幼児期でも顕著です。やっぱり身を守れないというか、とっさの事に避けられないとか、手がつかないとかいうところが、幼児期の中でも課題になっていますので、本当にコンクリートの上で生活している子どもたちがたくさんの現状の中で、でこぼこした道であったり、砂利道であったり、土の上であったり、泥でもやわらかい泥、固い泥、いろんな感触を味わって、体の機能をつけていくところと合わせて、自然体験と体づくりっていうところを、今、運動遊びということで、甲賀市内の保育園幼稚園でも取り組んでいるところですので、ぜひ自然体験と幼児教育とをあわせて、これからまた充実させていきたいと思っています。

委員長： はい、ありがとうございます。

密を避けるっていうのと、怖いっていう、新しい視点が加わってきていると思いますが、ボーイスカウトの方は、活動として変わってきたところとかありますでしょうか。

委員： コロナで、つい最近の状態を見ると、去年と比べて今のほうが感染するリスクが上がっているし、それを踏まえた上で、活動は考慮しないと具合悪いなど、つい最近から、ひしひしと感じているところです。実際に活動する時の安全対策の話になると、子どもたちの年齢ごとに、自分で防げる力をつけるための教育とか、これをすると危ないと教える部分と、大人がついて全体を見るという部分があります。大人が見る部分が、僕は一番心配です。子どもと一緒に保護者の方も活動しますから、その保護者は毎年新しくなるわけです。本があったらそれで勉強してくれると良いけど、実際は難しいと思うんです。以前は、安全誓いの集いは、毎年実施され、警鐘を鳴らすという場がありました。それが10年経って、解消され無くなってしまったので、どこかで親御さんの年代の人たちに警鐘を鳴らすような場が必要というふうに思います。夏の活動の前に勉強会や研修会がある時には、僕は事故の時のことを思うので、来年度の親御さん達、再来年の親御さん達も同じように一度は知ってもらい、会議の時はわずかで良いから触れてもらうことが大事だと思います。イベントにしてしまうとやっぱり続かないんですよ。毎年毎年だと、またかとなるし、同じメンバーのところばかりに声がかかりますから。我々のところは特に、親御さんは自分の子どもが入ったときだけしか関わらない。だから、その人たちに向いての働きかけは、僕はいるというふうに感じます。

委員長： はい、ありがとうございます。では、順番にいきます。市民会議の方では大人の行事がありますがいかがですか。

委員： 市民会議も今年はいろんな行事が中止になっています。例えば子どもの作品の発表など、全然出来ていないような状況です。コロナの関係で三密になるから無くしています。今後も、この状況がかなり続くと思うので、それに対するやり方を、この機会に見直すべきと思っています。これは今までもインフルエンザがあったと同じように、それが当たり前の中でどのような活動

していけば良いのかを考える、そういう見方を変える良い機会かなと思います。また今年は、非常にコロナの関係で、海水浴とかに行けないというような中で、千本桜のうぐいしが酷い状況になっていました。というのは、桜まつりを中止にしましたが、鮎河の在所の中にまで違法駐車をされるというようなことになりました。駐車場も全部封鎖しようということで封鎖されましたけど、そうすることによって、路上駐車をされる。ごみを捨てられる。そういうことで、区長さん並びに地域の住民が酷い迷惑を受けました。今後もこういう事が続くなら、地域でどのようにしようかということで、悩んでおられます。だから、体験で外に出るっていうのは良いですけど、やはり甲賀市内で子どもさんが活動なり、親御さんが子どもさんを連れて行かれる場所で、どういうふうにしないといけないのか、やはり親御さんにも指導していかなければいけないと思います。また他府県の方だけじゃなく、市内の方も来られると思うんです。その辺を考えないといけないと思います。

委員長： はい、ありがとうございます。

委員： 今年度は、やはりイベントというイベントがなかなか開催できませんでした。そんな中で学校の先生方が協力して、運動会をするところは縮小という形で実施させていただきました。文化祭も、例年は学生児童たちが演劇など、みんなで演目もしましたが、距離をとらなければならないという状況で、全員一列に並んで、間隔をとって並んでダンスを踊るとか、今までとは思考をかえた演目を、児童と学校が考えているのが印象的でした。組み立て体操ができないということで、今年初めての試みで、音楽にあわせて旗を振って演技をするとか、今までやったことの無いような演目を児童も先生方も一生懸命やられているのが印象的でした。なかなか出来ない中で必死にやろうとしているということでした。

委員長： ありがとうございます。いろいろ工夫されたり、また、いろんなご苦労があったりということですね。一つ、事務局にお伺いします。野外活動施設として、例えば甲賀市のキャンプ場はどちらかという方向になっています。私の体験では、コロナの影響で去年の春から夏にかけて、例えば岩尾池なんかは他府県からのキャンパーがたくさん入って行っている状況でした。これどうなるのかなと思っていたら、早速、地元の方と思いますが、入れないようにしておられました。今まで行政にお任せしたり、地域にお任せしたり、学校にお任せしたりしていた野外活動がなかなかできない時期でしたので、個人の方がそのような行動をされている状況でした。そのような話は、市の方に入ってきたりしていましたか。

事務局： 認知はしております。岩尾池に関しては、逆に整備をしたらどうかというお話はいただいております。また、一つの例で言いますと信楽に新たなキャンプ場ができて、結構たくさん入られていることは伺っています。市内の施設では特別に聞いていることはないですけど、印象としてスポーツの森とか、キャンプ場の利用が多いような印象はうけています。

委員長： ただ、今までとは少し雰囲気が違うキャンプのような感じがします。

事務局： テレビでよく、新たにキャンプされる方の事故が増えているということを聞きましたが、こういう啓発がいるということを思いながら、看板などを設置して啓発することは出来ていません。当然、必要になってくると感じます。

委員長： もう一つ質問させていただきます。KYTプログラムで、甲賀市版とか、実施できる場所を撮影したプログラムの開発とかをお願いしていました。このことについて、具体的にご説明できる段階でしょうか。もう一つは、全国連ではKYTシートを新しく更新する動きがあると聞きますけども、それが活用できるのかお聞かせいただけたらと思います。

事務局： はい。KYTにつきましては、子どもの絵のKYTシート使って学習をしていますが、内容が限定的であるということで、更新を考えています。具体的にお示しできるところまでは出来ていないのが現状です。KYTとは専門用語で、危険予知トレーニングと言って、シートを使って危険を予知して、トレーニングをして、安全にどう活動するかを学習するシートのことです。全国連は新しいシートに2年前にされています。市で購入はしていません。

委員長： ありがとうございます。他にございますか。

委員： 是非聞かせてほしいことが幾つかあります。新型コロナウイルスの情報は、どこで最新の情報をとったら良いのか分からないので、もしご存知だったら教えていただきたいです。例えば、マスク一つにしても、野外だとむれるからマウスシールドを使っている場面も見たりします。ただ、マウスシールドは効果が弱いという情報もあります。ですので私のところでは、業務ではマウスシールドは使わないこととしています。私も資源がもったいないと思って、布マスクを使っていましたけど、最近は不織布マスクを使わないと予防にならないと聞きます。そういう情報が、すごくよく変わりますので、どういうところで情報を得たら良いのか分かりません。消毒にしても、1年前は施設の全てを拭いて消毒していましたが、それぞれが手を洗うことが大事であるというふうに変わりました。私たちの職場では、6月に開館を再開した時に取り決めたことを守っていると過大な負担になってしまいます。それを変えようする時に、きっかけが掴めなくて困ったという経験があります。どういうところで、そういう情報得たら良いのかご存知であれば教えていただきたいです。

委員： いろいろな情報がたくさんありますよね。鼻出しマスクは全く効果がないという話をされました。確かにマスクをすると口元が見えないので、マウスシールドとかフェイスシールドが使われていたと思います。でも、マウスシールドは隙間があるので飛散するという話です。どこまでが正解でどこまでやったら良いというのが分からないと思います。

委員： 話さないのが一番とされています。

委員長： まず、教育キャンプでの最初の出会い、最初のコミュニケーションのときにマスクをしていると、表情が見えないのでコミュニケーションのスタートが非常に取りにくいです。ボーイスカウトの大人の研修の場合は、大人は気をつけられるので、あえて野外で、距離をとって、マスクをとるということはやりました。他に工夫されてるなどの情報も含めて、ありましたらお願いします。

委員： 学校では、集合写真撮る時にだけ、一瞬外して、撮ったらすぐにつけるとするのはやりました。

委員長： 事業でコミュニケーションをとる時の工夫はありますか。

事務局： どこまでが正しいかは分かりません。野外の場合は、手を広げて2メートルあるときはマスクを外していいけれども、声は出さない。あとはジェスチャーゲームや物を使ってコミュニケーションするということを行っています。

委員長： そういう意味では野外は、安全を保つために良いという思いも、不勉強ながらしています。

委員： それぞれが最新の情報にしっかりとアンテナをはるが必要に思います。小学校の皆さんは、昼ご飯の時は、対面で食べる場所があれば、等間隔に並んで一方向だけを向いて食べる

ところもありました。野外体験をするときに、食事というのは大きな楽しみでコミュニケーションだと思うんですけども、学校現場で何か工夫されていることがあれば教えていただけますか。

委員： はい。給食の時は一切話をしません。教室は1メートル間隔しか取れないので、1方向で絶対話さないということで徹底しています。あと食事関係ではありませんが、6月の再開以来、掃除も雑巾は使っていません。下拭きをしていません。モップを購入して、手を汚さないように工夫をしています。何よりも胸から上を触る時は手を洗いなさい、このことを徹底するしかないと思います。胸から上を触る時は必ず手を洗うことと、消毒をすることを常に徹底しないと仕方がない。6月から大きくは変えてはませんが、授業が終わった後に消毒を各教室すべて行いますので、手すりもすべて消毒を職員の方で行います。ただ、上手に距離を保ちながら、校外の集団登校などで十分に距離を空けてなら、しんどかったらマスク外して良いよと言っていますが、でも一切外さないです。子ども達のほうが徹底しているという、感心するばかりです。

委員長： 保育園とか幼稚園で何かご苦労されることはありますか。

委員： WHOで幼児期のマスクの強要は窒息の危険性があるというので、園での園児のマスクの強要はしていません。小学校みたいに個人の机がありませんので、備品として机を増量したりとか、そのような環境面で整えて、学校がしておられるように一方向であったりとか、声の大きさをどうかなっていうことを子ども達と一緒に考えたりしています。大人が感染源になってはいけないので、保育士はマスクの着用はしっかりとしつつ、学校と同じように園児達も登園してきたら手洗い、活動の前と後も手洗い、給食の前も手洗いということ徹底して、保育園幼稚園でもしています。保育士の動きとしてもやっぱり消毒、園児が帰った後はプラスチックのおもちゃをすべて消毒して、積木などの木製のものも消毒で拭いて、次の日に綺麗な清潔な状態で使えるように対策をしております。

委員長： ありがとうございます。そのような情報を共有することが大事だと思います。例えば、子ども対象の教育キャンプでしたら、子どもは学校でそういうルールを身につけているので、事業者もしっかり情報共有をする。みんなでそういう知識をコロナも含めて高めていくということが必要なと感じます。他どうぞ、提言でも結構ですし、ご質問でも結構でございます。市では宿泊を伴う事業は、例えば来年できそうなのか、手法として確立してないから無理だとか、その辺の見解はどうでしょうか。

事務局： 現時点では、例えばスポーツ少年団であれば、学校での基準で厳しいということになっていきます。同じように社会教育でも現時点の状況で、宿泊の事業は避けるという対策になってきます。当然、野外のテントでは、中は密集しますので、その辺のしっかり対策が確実に安全というような状態、これだと概ね大丈夫という状態が確認できないと実施は出来ないと思っています。

委員長： キャンプ協会では、大人の研修の時は、一人一張りのテントでこの間やりました。ボーイではされていますか。

委員： そのテントを用意する費用がいります。昔では大きなテントに入るだけ入って寝るという状態でした。今はそういうのはできないし、子どもであってもソロで使えるぐらいのテントで、宿泊するほうが実際良いと思います。

事務局： 寝る時は良いけれど、食事の時はどうするなど、まだまだいろいろな課題もあると思います。ただ、自然体験に関しては、この親子デイキャンプでも多くの申し込みがありまして、24組に対して148人という応募がありました。ですので、求められている方が多いと思いますので、そのような場づくりを今年度はやってきました。先ほどのご意見の中でも、保護者へのケアというところの効果もあるでしょうし、そういうタイムリーな方が求められているところで啓発していけるよう考えていく必要があると思います。

委員： 大人と一緒にいる時の役割は、リスクをどうして無くすかが大人の仕事ですよ。子どもが子どもなりに、こういう時はこうだからこうしないといけないということは勉強しないとけない。けれど、それを越えたリスクのところは、しっかりと分析をして避けるようにするのは大人の仕事。保護者の方が、僕は本当に心配で、なかなか分からないと思います。その時には、やはり13年前の事故の話を語り継いでいかないとだと思います。

委員長： がんばって語り継いでいきたいという思いです。若い親御さんの中でもキャンプ行きたいと思われる方が多いと思います。自然体験の良いきっかけになる、ただ反面、いろいろな人が来られることの問題もたくさんあり難しい。このコロナで、そのように家族で行くくらいしか楽しめない状況でもあります。そのことを上手に活かしたら良いという思いもします。

委員： 岩尾池の話は、勝手に入って来られるから、地元の人が結局ロープ張っています。けれど、都会の方があのロケーション見ると、そこでキャンプしたいとなりますよね。写真撮ったら本当に綺麗に映るので、そういうところは甲賀市内を探したらいっぱいあります。そういう場所に隠れてたくさん入っているのが現状です。

事務局： そうでしょうね。

委員： 近づいて見回らないと分からないです。信楽の大戸川なんかは勝手に降りているのを見ます。びわ湖の回りもそれが多。湖周道路の中の整備した公園でテント張ったりする人がたくさんいて、地元の方がごみを捨てて帰られるので、禁止の看板を立てておられます。マナーが悪過ぎます。ごみを持って帰って綺麗に使われるのであれば、そんなことにはならないのでね。甲賀市でも一緒だと思います。昔は各町にキャンプ場がありましたが、それがみんな閉鎖になっている。管理することが大変です。でも、ポテンシャルはものすごくあると思います。募集かけるとたくさんあると思います。スポーツの森はたくさんの方が申し込みされるので、早く行かないと予約できない。ゴールデンウィークは全然とれないし、最近は真冬に申し込みする人がいるくらいです。冬の方が、気持ちは良いですけど、冬のキャンプは危険もありますけどね。

委員： 岩尾の旧キャンプ場の池の前は、結局キャンプすることは駄目なのですか。

委員： 今はキャンプ場ではないですよ。ただ勝手にされている状態。水がないのでトイレが無いですね。トイレも撤去されていると思います。

事務局： 当然、所有者がおられますので、勝手には問題ありますけれど。

委員： 恥ずかしながら、個人的に去年からキャンプを始めました。岩尾の旧キャンプ場が良いよと地元の人にお勧めされたので見に行くとキャンプをされていました。私たち、毎年ここが気に入って兵庫から来ていますと。その時もロープが張ってありました。でもマナーを守ってされている感じで、自分もして良いのかなと思いました。ただ、しても良い場所か分からないままなのが気持ち悪いので、調べました。すると旧キャンプ場はB&Gが窓口みたいなので、B&G

に電話をして、しても良いんですかと聞くと、自己責任でお願いしますという回答でした。何かあってもB&Gは責任取りませんよという回答でした。大丈夫なことは無いと思っていたので、今日話を聞いてすることは駄目と改めて思いました。

委員： それは綺麗に見えます、あの場所は。秋になれば紅葉して、池の水に反射して、それは綺麗に写真が撮れます。

委員： バードウォッチングに来られていたご年配の方は、非常にこの場所が気に入っていて、よく来るとおっしゃっていました。

委員長： 大半の人はごみを捨てるという状態ではないけども、一部の人がきちんとしていないということは、きちんとしている人がルールづくりをするという前向きな取り組みをして、甲賀市のメリットを生かしながらやるというのは、私はありかなと思いつつ見えています。甲賀市はマナーの良い人が来ているキャンプ場という噂が広がるぐらいの事になれば良いと思います。そういうキャンプは教育委員会の範疇ではないですけども、甲賀市全体として見たら、まだ取り組む余地はあるのかなという、気はします。

事務局： この間、セミナー打ち合わせでも、そういう話が出ていました。キャンプ自体が何かを求め過ぎていて。今、コロナの状態、原点に戻って見直すのも有りかなと思うという事を先生が言われていて、私もそのとおりの状態になっているのかなと思っています。

委員長： 大原ダムのほうは今どんな状況で、将来どんな状況になりそうか、ちょっと聞かせてもらえますか。

事務局： 今は閉鎖の状態です。

委員長： あの川の上流でもダムの反対側から林道を上がっていくと良い河原があるから、そこにかなりの人が入ってると思っています。

委員： 野洲川の上流も、大河原の奥を上がってずっと上流に入っている人がたくさんいるでしょう。良いロケーションのところはたくさん入って行きますね。

事務局： その辺の管理責任が問われる時代に、今はなっています。

委員： 山奥に入っていくからにはそれなりに認識が必要ですけど、そこは全然無いと感じます。

委員： 先日、鈴鹿に近いほう行くと、山歩きで山の中でテント張っている人がたくさんいましたね。山の人たちはどこでもテントを張っておられますが、自分できちんのごみも持って帰られるし、だからそんなに問題にならないですね。

事務局： 野洲川ダムの上流でも、結構そのような場所があると聞いたことがあります。

委員： もう夏はすごいです。スカイラインをずっと上がると、山に入れる道が二つあるんですけども、よく来ておられますね。ものすごく水が綺麗で、イワナとかがいるぐらいです。そんなところなので、三重県とか名古屋から来られています。

委員長： キャンプ場の話ばかりで申し訳ないけども、そこまでは教育キャンプには使えないけども、鮎



河小学校とか、山内小学校のあの辺は、教育の形で活用するという可能性は今現状としてはもう無理ですか。

事務局： 山内は、入札で業者が既に事業を進めています。鮎河も、地域で有効利用を考えておられます。大河原も含め素晴らしい自然があるので、吉野の宮滝の学校のような使い方が出来れば良いなと思っています。団体での利用が宮滝の学校は入っておられます。

委員長： それくらい投資しても良いのになあとと思っています。

委員： 要は、夏は良いですけど、冬が駄目ですね。冬が問題で、4年5年ぐらい前にもものすごい雪が今の時期にはありました。60センチぐらいが2回降って、大半の家の庇が折れたということがありましたから、雪さえなければもっと話はスムーズに動くと思います。60センチから腰近くまで、2回、2週に続けて降りましたので、あの時は全然身動きがとれなかった。除雪しても追いつかない。

委員長： 逆に本当に良いところなのでね、是非とも利活用できたら良いと思っています。

委員： 先ほどの話ではないですけど、うぐい川の上流にダムがあるんですけど、あそこでずっと2、3ヶ月住んでおられた方がいて、ずっとキャンプをされていました。トイレはうぐい川公園のトイレまで、わざわざ出てこられていまして、食料は土山まで買いに行っておられました。そういう人が結構いるからということで林道も止められました。個人の所有の土地が多いので、やっぱり山に入って何をしているか分からないのは怖いです。

委員長： そういう意味では、まだまだ未知のジャングルが甲賀市ではたくさんありますね。信楽にも雲井の紫香楽宮跡の駅とか。そこも市と地域、県らと力を合わせて整備をしたら、面白いところになりそうだと思いますけど。

事務局： 河原もありますし、自然もあります。自然公園にはなかなか建物は建てにくいので、自然としては、利用できると思います。同じように中にバギーで入ったりされている方がいると聞いています。

委員長： 交通政策と手を組んで対策をしてもらえたらと思います。はい、どうもありがとうございます。いろいろな好きな話をしながら、時間が経過してしまいました。そろそろ終わりたいと思います。あと特にこれだけは言っておきたい、聞いておきたいというのがございましたらお願いします。もしなければ、今のとりとめの話でしたけども、終わろうかと思っています。ありがとうございました。